

習慣の理法と幼児教育

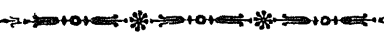
光藤泰次郎

幼児を教育する任務を持つて居る母親や、幼稚園の保母は、習慣の理法に就ては、深く考究し、多く其の實例を知らなければならぬと思ふ。然るに廣い世間には此の習慣の理法を蔑如するものがあるやうである。我が幼児教育の社會にもかういふ人が、まるでないとはいへぬ。そして我が子の子を賊ひ、自身も亦蒔いた種の悪い實を刈らねばならぬ羽目に陥るものが往々あるやうである。昔支那戰國の時代に、國に、といふ王がありました。政治を怠りて、あまりに身を入れぬところから、近臣が之を諷して、ある處に鳥があります。三年の間飛びませず、鳴きませず、これ何の鳥であらうといひますと、此の王は餘程賢明なる性質の王だと見えて、忽ち自分を諷諭したのでと悟り、三年飛ばなければ、飛ばし將に天にのいらう。三年鳴かなければ、鳴けば將に人を驚かすだらうといつて、それより驟然と、今までの心入を

改め、政治に身を入れたから、國內が非常によく治まつたといふ話がある。これは怠惰者のよく口にかゝる所の有名な話であるが、まづ此の話のやうに、今までの怠惰者が急に勤勉家になるなど、いふとは、絶無の例ではないか、しかし普通の例ではない。習慣の理法の側からいへば、稀にあるべき事柄であつて、寧ろ之に背反した事實といふ方が適當である、然るに世間には之に類した例が少くない。彼の幼児を教育するに、謂はゆる放任主義をとるもの、如きは、其の一例であらう。成程幼児を保育するに、之を大人を扱ふと同様の扱をするのは、無論相違である。大人の身體や精神と、幼児の身體や精神と異なつて居るから、其の扱は無論相違すべきであるが、しかし其の取扱を別にすると何れも放任主義を取れといふとはない。幼児の身體なり精神なりに適合するやふに、取り扱へといふとである。然るに世間の事は一の極端から他の極端に走る傾向があるものだから、滔々たる社會、随分多く放任主義の幼児教育を採用するものがあるに至つた。しかし此の主義のあ

やまれる點は間もなく發見せられ、此の主義の弊害の多いことは間もなく分つて、今では穩健なる幼兒教育主義の勢力を占むるやうに至つたが、まだ往々此の謬見を抱いて居るものもあるやうだし、其の弊害を受けて居る幼兒を見受くるのが少くない。放任主義のわるい點はどこにあるかといふに、つまり此の習慣の理法を無視する處にあると私は思ひます。子供に禮儀作法を八ヶましく責むる必要がないというて、一切放任しおき、相當の年頃になつて、いざ必要といふとき、急に仕込まうと思つても、さう考へた通り旨く仕込めるものでない。成る程子供のときに、大人と同程度の禮儀作法を責めたならば、子供に取つて無論無理であらうけれども、しかし子供相當に年齢相應の事を教へ込み、ならして行とくといふとは、少しも困難なをでもなく、又無理なをでもない。いざ必要といふ年齢になつて決してまどつく氣づかひはない。又子供を教育するに、少しも生活の苦渡世の苦を知らさずに育てやうといふ主義があるやうであります。無論其の動機は我が子が可愛い爲で

あつて、決して我子の爲あしかれといふ考でないとは明く白々であります。しかし其の結果は我が子善かれと思ふ親の希望通りに參らぬのみか、或は反對の結果を來すが往々あるやうであります。なほ少し具體的に申しますれば、子供を育てる際に、衣服などは、成るべく質素を主とした方がよいと思ひますのに、或は身分不相應に、金目のかゝるものを着せる惡風があるやうに見受けられます。それも男の子はさほどにも感じませんが女の兒になると、非常に贅澤のやうに思はれます。又身分相應といつても子供はいづれも修業中のものであるから、自らその程度があらうと思はれます。然るに世間一般の人は、内所の苦しいのをかくして、美服を着飾らせたり、或は子供の求むるがまゝに買ひ與へるものがあるやうであります。こゝは子供の教育に心を用ふる者の考へべき點であらうと思ひます。以上は衣服の一例に過ぎませんが、一事は萬事で、我が國の人が子供を遇するに、其の方法を誤つて居るとが少くありません。幼少の時から子供の活動好きな性質を利用して、子供が



勞作を好み、骨折を厭はないやうに仕向けて、良
 習慣をつけべきのに、家庭の好き處になると、安
 逸無事にして居るが人の理想であつて、勞作し勤
 勉するのは恥辱であるかの如く思つて居る人もあ
 る。随分間違つてゐる考ではあるが、かういふ考
 から全く子供の健康をすゝめ、智力を鍊るべき勞
 作骨折をばさせないで、常に好機を逸しつゝある
 のは實に堪へ難い次第であります。中流以下の家
 庭でも、成るべく子供に、苦勞を知らせないで、
 上品に、すうりと育てあげやうと心掛けて居らる
 向が少くないやうであるが、成る程遊の觀念に
 乏しく、利害得喪の外に超然たれば、上品は即ち
 上品であらうけれども、此の如きは競争の激しい
 現今の社會に必要な資格であるとはいへぬ。我
 らは寧ろ利害得喪は十分に打算しつくし、よしや
 自分に得る所大なるものがあらうとも、しかし無
 形に失ふ所があれば、寸毫も取らぬといふ風に子
 供を仕立てあげたいと思ふのである。物質上の利
 害得失は無論よく分りさつて居るが、しかし理に
 於て正しからざれば、利も取らず、理に於て正し

ければ害も避けないといふ立派な人物に仕立て上
 たいものである、さうするにはどうしても子供を
 育つるに訓はゆるか坊ちやん育ちに育てゝはなら
 ない。少い時から、少い相應に勞作に慣れしめね
 ばならぬ、苦勞に慣れしめねばならぬ。ふだんか
 ら勞作に慣れて居り、苦勞に慣れて居れば、時來
 りて社會へ乗り出すに當つて、心配もなく、氣遣
 ひもない。之に反して、あまりに大事にしすぎて、
 ふだん勞作に慣れしめず苦勞になれしめずにかく
 と、いざ社會に乗り出させやうとする時に、一向
 社會の様子がわからず、傍の者がどうも心配でた
 まらんといふ様になるものである。かゝる場合に
 如何に心配したからとて、如何に氣をもんだから
 とて、今までの習慣は急に直るものでもない。また
 急に社會に出かける準備が出来るものでもない。
 子供を愛して苦勞せしめなかつたのが、却つて子
 供を苦勞せしむる種となつたのである。勞作に慣
 れしめぬのは、子供を愛する爲であつたが、其の
 結果は子供を愛するのではなくして、却て子供を
 苦しませるやうなものであつた。此の上に就ては

大に熟考して幼児の教育に従事せねばならぬと思ふ。又子供が小學校に行き出す頃になると、まだ小學校時代ゆえ、何も復習するの必要はあるまいと一切放任して顧みぬ人がある。成る程小學校時代の事故學科も格別六ヶしい事はないそれ故家庭で復習させなくとも、どうやらかうやら小學校を終る位は、頭腦の普通なる子なら先づ差支はない。しかし餘程天才のある子の外は、どうやらかうやら終るといふだけで、決してよく出来るといふのではない。中學にはいる。思ふやうに成績がよくない。復習をせめる。けれども本人は一向平氣で、少しも欲も徳もない。實に吞氣至極である。かういふ人が世間には随分多くある。中には全く頭腦のわるい爲に成績のよくないものもあるが、大抵は小學校時代に復習の習慣がつかないが爲のやうである。復習の習慣として外の習慣と同様で、さう急につくべき筈のものでない。小學校時代は一切放任して、遊ばせておいて、中學になつたから急にやらせやうとしても、さう人間界のとはうまくゆくものではない。小學校に入りたての時から、學校に於

てどんなを習つたか、どんな御話をきいたか、どういふ字を習つたか、どんなお勘定をしたか、毎日尋ねて見て、之を復習してやる。學校では三時間かゝつたとも、三十分間位あれば、何もかも皆出来てしまふと思ひます。かういふ時分から復習の習慣をつける、學んだを十分に熟練する習慣をつけると後來の學習に大に助となるばかりではない、實に其の人物を研ぎあげる上にも大なる助となるものであると思ひます。凡そ人の務は種々ありましようけれども、其の日其の日の務を完全に果たすといふとは、甚だ良い習慣であるといはねばならぬ、子供が小學校にあがつた位の時から、其の日其の日の務を完全に務めさすといふことにしたならば、實に學問のため、其の人物修養のため、一舉兩得といつて善からうと思ひます。或は子供に復習などさせるのは、幼少の時からあまりに頭腦を用ひ過ぎる嫌がある、せめて中學にはいつてからとか或は小學校でもとの高等一年、今の尋常五年の頃から遅くはあるまいといふ説があるかも知れませぬ。一應は尤のやうに聞えますが、私

は此の説には反對します。苟も學校に出して學ばした以上、其の學んだを飽くまでもよく熟練するといふとは非常に良い習慣であると同時に、學んだ所をよい加減にして放つてかくといふとは非常にわるい習慣であると思ひます。子供の時分から此の良い習慣にならして、悪しき習慣に遠ざからせねばならぬと思ひます。尋常一年頃から復習をさせたりなどとすると、大へん頭を使ひすぎはしないかといふ説もありまじやうが、私はやり方によつては決して使ひすぎないと思ひます。成る程復習など、申しますと、兎角時間がかゝるやうに思ひますけれども尋常一年頃の極簡單なものであれば、最多限が前に申した三十分で澤山であります。大抵は一科について五分もあれば澤山だと思ひます。さうすれば決して頭腦を過勞せしむる恐はないと思ひます。尋常一年の頃から復習の習慣がつき、學科に興味がついたならば、後にはすべて一人で復習をし、一人で何でも學科の始末をするのが出来るやうになつて、決して人手を煩はすに至らないと思ひます。然るに前申したやうに、

あまりに子供の頭腦を使ひ過ぎはしまいかなど、斟酌が過ぎて、つい復習の習慣をつけをこない、後々になりまして、如何にはたからは骨を折つて見ても効果は見えませんが、心配して見ても本人は一向平氣であるといふ現象を呈するであらうと思ひます。習慣といふものは、至極大切なものである。此の大切な習慣は一朝一夕に養成されるものでもなければ、又一朝一夕に改良されるものでもない。漸を以て進み、漸を以て改めて行かねばなりません。それ故に幼児教育の任務を持つた所の母親とか幼稚園の保母とか、幼児の將來を左右するの關鍵を握つて居るところの人々は、此の習慣の理法に就ては、深く研究を致されて、銘々の子供や幼稚園の兒童をば、善さが上にも善さに導くやうに力を致されんことを希望いたします(完)

